新　編

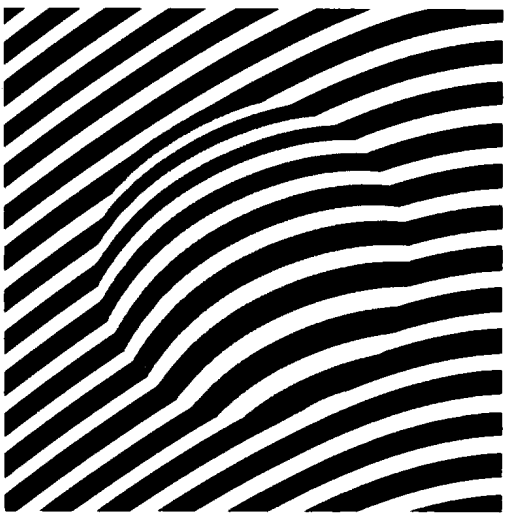
現行の国語表記の基準

文化庁国語課 監修

新　編

現行の国語表記の基準

文化庁国語課 監修



—— 新編　現行の国語表記の基準 ——

昭和57年12月10日　発行　　定価 1,600円（送料 300円）

監修　文化庁国語課

発行所　株式会社　ぎょうせい

本　社　東京都中央区銀座7の4の12
営業所　東京都新宿区西五軒町52
郵便番号　162
電話代表　東京 03(268)2141
振替口座　東京4—10,000番

＜検印省略＞

印刷　行政学会印刷所　　製本　加藤製本（株）

＊乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

3037—900690—1505

監修のことば

昭和56年10月１日付けで「常用漢字表」（昭和56年内閣告示第１号）が告示されました。この常用漢字表は，従来の当用漢字関係の諸表に代わるもので，当用漢字表に比べて字数が増加しているほか，当用漢字表の制限的な色彩を改め，一般の社会生活において現代の国語を書き表すための漢字使用の目安として定められたものであります。常用漢字表の実施によって，各方面で漢字の使用に関する新しい取り決めがなされるなど，国語表記の基準の改定が行われました。

本書は，さきに文化庁で作成した「現行の国語表記の基準」（昭和42年，昭和49年改定）の体裁に倣い，常用漢字表を字種，字体，音訓等の検索に便利な形に組み換えて収めるとともに，「現代かなづかい」（昭和21年内閣告示第33号），「送り仮名の付け方」（昭和48年内閣告示第２号），「ローマ字のつづり方」（昭和29年内閣告示第１号）などの諸基準をはじめ各種の国語表記に関する参考資料を収めて，文化庁国語課監修の下に，使いやすい形に編集したものであります。広く各方面で活用していただければ幸いです。

昭和57年10月

文化庁文化部国語課長

中村　賢二郎

目　次

監修のことば

基準に関する資料

1　漢　字

(1)　常用漢字表〔内閣訓令・内閣告示（前書き・表の見方及び使い方）〕 …… 1

(2)　音訓両引き常用漢字一覧 …… 9

(3)　常用漢字表「付表」 …… 124

〔付〕国語審議会答申「常用漢字表」前文 …… 127

(4)　学年別漢字配当表 …… 133

(5)　子の名に用いる漢字――戸籍法（抄）及び戸籍法施行規則（抄） …… 137

2　仮名遣い

(1)　現代かなづかい〔内閣訓令・内閣告示〕 …… 142

(2)　現代かなづかいの要領 …… 164

(3)　正書法について …… 168

3　送り仮名

(1)　送り仮名の付け方〔内閣訓令・内閣告示〕 …… 174

〔付〕国語審議会答申「改定送り仮名の付け方」前文 …… 186

(2)　文部省 公用文 送り仮名用例集 …… 190

4　ローマ字

(1)　ローマ字のつづり方〔内閣訓令・内閣告示〕 …… 252

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

その他の国語表記の参考資料

(1) 文部省 用字用語例 …… 255
(2) 公用文における漢字使用等について …… 303
(3) 「公用文における漢字使用等について」の具体的な取扱い方針について …… 308
(4) 公用文作成の要領（公用文改善の趣旨徹底について） …… 310
(5) 法令における漢字使用等について …… 321
(6) 法令用語改善の実施要領（法令用語改正要領） …… 327
(7) 同音の漢字による書きかえ …… 336
(8) 「異字同訓」の漢字の用法 …… 343
(9) 外来語の表記について …… 361
(10) 外国の地名・人名の書き方（案） …… 392
(11) 地名表記の手引 …… 395

1　漢　　字

(1)　常用漢字表

◉内閣訓令第1号

各行政機関

「常用漢字表」の実施について

政府は，本日，内閣告示第1号をもつて，「常用漢字表」を告示した。

今後，各行政機関においては，この表を現代の国語を書き表すための漢字使用の目安とするものとする。

なお，昭和21年内閣訓令第7号，昭和23年内閣訓令第1号，昭和24年内閣訓令第1号，昭和26年内閣訓令第1号，昭和48年内閣訓令第1号及び昭和51年内閣訓令第1号は，廃止する。

昭和56年10月1日

内閣総理大臣　　鈴木　善幸

◉内閣告示第一号

一般の社会生活において現代の国語を書き表すための漢字使用の目安を、次の表のように定める。

なお、昭和二十一年内閣告示第三十二号、昭和二十三年内閣告示第一号、昭和二十四年内閣告示第一号、昭和二十六年内閣告示第一号、昭和四十八年内閣告示第一号及び昭和五十一年内閣告示第一号は、廃止する。

昭和五十六年十月一日

内閣総理大臣　　鈴木　善幸

【編者注：以上告示文，原文は縦書き。】

常用漢字表

前書き

1　この表は，法令，公用文書，新聞，雑誌，放送など，一般の社会生活において，現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。

2　この表は，科学，技術，芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。

3　この表は，固有名詞を対象とするものではない。

4　この表は，過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。

5　この表の運用に当たつては，個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

表の見方及び使い方

1　この表は，「本表」及び「付表」から成る。

2　「本表」には，字種1945字を掲げ，字体，音訓，語例等を併せ示した。

3　漢字欄には，字種と字体を示した。字種は字音によつて五十音順に並べた。同音の場合はおおむね字画の少ないものを先にした。字音を取り上げていないものは字訓によつた。

4　字体は文字の骨組みであるが，便宜上，明朝体活字のうちの一種を例に用いて現代の通用字体を示した（「(付)字体についての解説」参照）。

5　括弧に入れて添えたものは，いわゆる康熙字典体の活字である。これは明治以来行われてきた活字の字体とのつながりを示すために添えたものであるが，著しい差異のないものは省いた。

6　音訓欄には，音訓を示した。字音は片仮名で，字訓は平仮名で示した。一字下げで示した音訓は，特別なもの又は用法のごく狭いものである。

7　派生の関係にあつて同じ漢字を使用する習慣のある次のような類は，適宜，音訓欄又は例欄に主なものを示した。

けむる	煙る	わける	分ける
けむり	煙	わかれる	分かれる
		わかる	分かる
けむい	煙い，煙たい，煙たがる	わかつ	分かつ

なお，次のような類は，名詞としてだけ用いるものである。

しるし｜印　　こおり｜氷

8　例欄には，語例を示した。これは，音訓使用の目安としてその使用例の一部を示したものである。

9　例欄の語のうち，副詞的用法又は接続詞的用法として使うものであつて紛らわしいものには，特に〔副〕又は〔接〕という記号を付けた。

10　他の字又は語と結び付く場合に音韻上の変化を起こす次のような類は，音訓欄又は備考欄に示しておいたが，すべての例を尽くしているわけではない。

納得（ナットク）　　格子（コウシ）
手綱（タヅナ）　　金物（カナモノ）
音頭（オンド）　　夫婦（フウフ）
順応（ジュンノウ）　　因縁（インネン）
春雨（ハルサメ）

11　備考欄には，個々の音訓の使用に当たつて留意すべき事項を記したほか，異字同訓のあるものを適宜 ↔ で示し，また，付表にある語でその漢字を含んでいるものを注記した。

12　「付表」には，いわゆる当て字や熟字訓など，主として一字一字の音訓として挙げにくいものを語の形で掲げ，便宜上，その読み方を平仮名で示し，五十音順に並べた。

（付）　字体についての解説

第1　明朝体活字のデザインについて

常用漢字表では，個々の漢字の字体(文字の骨組み)を，明朝体活字のうちの一種を例に用いて示した。現在，一般に使用されている各種の明朝体活字（写真植字を含む。)には，同じ字でありながら，微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし，それらの相違は，いずれも活字設計上の表現の差，すなわち，デザインの違いに属する

事柄であつて，字体の違いではないと考えられるものである。つまり，それらの相違は，字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下，分類して例を示す。

1　へんとつくり等の組合せ方について

(1)　大小，高低などに関する例

硬 硬　吸 吸

(2)　はなれているか，接触しているかに関する例

睡 睡　異 異

2　点画の組合せ方について

(1)　長短に関する例

雪 雪 雪　満 満　無 無　斎 斎

(2)　つけるか，はなすかに関する例

発 発　備 備　奔 奔

空 空　湿 湿　吹 吹

(3)　接触の位置に関する例

岸 岸　家 家　脈 脈 脈

蚕 蚕　印 印

(4)　交わるか，交わらないかに関する例

聴 聴　非 非　祭 祭

存 存　孝 孝　射 射

(5) その他

芽 芽 芽　夢 夢 夢

3　点画の性質について

(1) 点か，棒（画）かに関する例

帰 帰　班 班　均 均　麗 麗

(2) 傾斜，方向に関する例

考 考　値 値　望 望

(3) 曲げ方，折り方に関する例

勢 勢　競 競　頑 頑 頑　災 災

(4) 「筆押さえ」等の有無に関する例

芝 芝　更 更

八 八 八　公 公 公　雲 雲

(5) とめるか，はらうかに関する例

環 環　泰 泰　談 談

医 医　継 継　園 園

(6) とめるか，ぬくかに関する例

耳 耳　邦 邦　街 街

(7) はねるか，とめるかに関する例

四 四　配 配　換 換　湾 湾

第2　明朝体活字と筆写の楷書との関係について

常用漢字表では，個々の漢字の字体(文字の骨組み)を，明朝体活字

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

のうちの一種を例に用いて示した。このことは，これによつて筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであつても，明朝体活字（写真植字を含む。）の形と筆写の楷書の形との間には，いろいろな点で違いがある。それらは，印刷上と手書き上のそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下，分類して例を示す。

1　明朝体活字に特徴的な表現の仕方があるもの

(1)　折り方に関する例

衣－衣　去－去　玄－玄

(2)　点画の組合せ方に関する例

人－人　家－家　北－北

(3)　「筆押さえ」等に関する例

芝－芝　史－史

入－入　八－八

(4)　曲直に関する例

子－子　手－手　了－了

(5)　その他

辶－辶　灬－灬　心－心

2　筆写の楷書では，いろいろな書き方があるもの

(1)　長短に関する例

雨－雨 雨　戸－戸 戸 戸

無－無 無

(2) 方向に関する例

風－風風　　比－比比

仰－仰仰

糸－糸糸　ネ－ネネ　ネ－ネネ

主－主主　　言－言言言

年－年年年

(3) つけるか，はなすかに関する例

又－又又　　文－文文

月－月月

条－条条　　保－保保

(4) はらうか，とめるかに関する例

奥－奥奥　　公－公公

角－角角　　骨－骨骨

(5) はねるか，とめるかに関する例

切－切切切　　改－改改改

酒－酒酒　　陸－陸陸陸

宀－宀宀六

木－木木　　来－来来

糸－糸糸　　牛－牛牛

環－環環

(6) その他

令一令令 外一外外外

女一女女」

(2) 音訓両引き常用漢字一覧

前書き

1　この表は，常用漢字表の字種，字体，音訓等の検索に便利なように編集したものである。

2　漢字の配列は，常用漢字表に掲げられたすべての音訓を見出しとして，五十音順にした。同じ見出しの中の漢字の配列は，おおむね字画の少ないものを先にした。また，連続する見出しが同じ漢字のものである場合には，それらを一つにまとめた。

3　漢字は，第1段に明朝体活字の一例を借りて通用字体を示し，第2段に常用漢字表で括弧に入れて添えてあるいわゆる康熙字典体を示した。

　また，第3段に「小学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第155号）」の「学年別漢字配当表」に掲げられている漢字を教科書体活字で示すとともに，その配当学年を1～6の算用数字で示した。

4　音訓は，各字ごとに常用漢字表に掲げられているすべての音訓を，音を片仮名，訓を平仮名で示した。常用漢字表に「一字下げ」で掲げられている音訓（特別なもの又は用法のごく狭いもの）には，この表では，下線を施しておいた。

　また，訓のうち，送り仮名を必要とするものは，その送り仮名の部分を，内閣告示の「送り仮名の付け方」によって，太字で示してある。

〔見出し〕	〔通用字体〕	〔康熙字典体〕	〔教科書体活字〕	〔当配学年〕	〔音；訓〕
	〔あ〕				
ア	亜	(亞)			ア；──
アイ	哀				アイ；あわれ・あわれむ
	愛		愛	4	アイ；──
あい	相		相	4	ソウ・ショウ；あい
あいだ	間		間	2	カン・ケン；あいだ・ま
あう	会	(會)	会	2	カイ・エ；あう
	合		合	2	ゴウ・ガッ・カツ；あう・あわす・あわせる
	遭				ソウ；あう
あお あおい	青		青	1	セイ・ショウ；あお・あおい
あおぐ	仰				ギョウ・コウ；あおぐ・おおせ
あか あかい	赤		赤	1	セキ・シャク；あか・あかい・あからむ・あからめる
あかす	明		明	2	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
	飽				ホウ；あきる・あかす
あかつき	暁	(曉)			ギョウ；あかつき
あからむ	赤		赤	1	セキ・シャク；あか・あかい・あからむ・あからめる
	明		明	2	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
あからめる	赤		赤	1	セキ・シャク；あか・あかい・あからむ・あからめる
あかり	明		明	2	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
あがる	上		上	1	ジョウ・ショウ；うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼる・のぼせる・のぼす
	挙	(擧)	挙	4	キョ；あげる・あがる
	揚				ヨウ；あげる・あがる
あかるい あかるむ	明		明	2	メイ・ミョウ；あかり・あか

			るい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
あき	秋	秋[2]	シュウ；あき
あきなう	商	商[3]	ショウ；あきなう
あきらか	明	明[2]	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
あきる	飽		ホウ；あきる・あかす
アク	悪(惡)	悪[3]	アク・オ；わるい
	握		アク；にぎる
あく	空	空[1]	クウ；そら・あく・あける・から
	明	明[2]	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく あくる・あかす
	開	開[3]	カイ；ひらく・ひらける・あく・あける
あくる	明	明[2]	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
あける	空	空[1]	クウ；そら・あく・あける・から
	明	明[2]	メイ・ミョウ；あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす
	開	開[3]	カイ；ひらく・ひらける・あく・あける
あげる	上	上[1]	ジョウ・ショウ；うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼる・のぼせる・のぼす
	挙(擧)	挙[4]	キョ；あげる・あがる
	揚		ヨウ；あげる・あがる
あさ	麻		マ；あさ
	朝	朝[2]	チョウ；あさ
あざ	字	字[1]	ジ；あざ
あさい	浅(淺)	浅[4]	セン；あさい
あざむく	欺		ギ；あざむく
あざやか	鮮		セン；あざやか

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com